

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:19.

病棟所属の乳がん看護認定看護師の実践活動に必要なこと

吉田美幸

病棟所属の乳がん看護認定看護師の実践活動に必要なこと

旭川医科大学病院 5階東ナースステーション

吉田美幸

【目的】A病院B病棟所属の乳がん看護CNの一年間の実践活動を振り返り、中央部門との看護連携・通院患者への看護ケアの現状を明らかにすることで、今後の看護連携の課題と乳がん看護CN活動への示唆を得ることを目的とする。

【方法】2011年3月以降、月に2回数時間ずつの乳がん看護CN実践活動の「場所」「ケア件数」「相談内容」を集計し分析を行なった。【結果】放射線治療室・外来・点滴センターの3箇所であり、「活動場所」「ケア件数」ともに放射線治療室が最も多かった。おもな「相談内容」は不安やセルフケア支援であり、直接患者からの相談も多くあった。また、外来や点滴センターでもスタッフ以外に、直接患者からの看護依頼も増加傾向である。【考察】乳がん看護CNとして活動時間を確保し、積極的にスタッフや患者とコミュニケーションを図ることが、ケアニーズの掘り出し・相談件数の増加に繋がる重要な要因と考える。【今後への示唆】乳がん看護CN活動の日時・内容について、通院患者へ周知が不十分である。患者から「相談したい時にどうすればよいか」という声もあるため、患者が直接乳がん看護CNに相談しやすいシステムの構築が必要である。